

市民記者のページ



なかじま ひでお
中島 英雄 さん（蒔田）

クラフトフェアの意味を知り、出店者と作品に対する見方が深まりました。

全国各地から プロクラフトマンが集結

クラフトフェアとは、フリーマーケットのような誰でも出品できるイ

イベントです。今回、茨城クラフトフェア実行委員会代表の諏訪光一さんに、茨城クラフトフェアが始まったきっかけや運営についてお話を伺いました。

世界に一つだけの オリジナル作品を見つけよう 茨城クラフトフェア



茨城クラフトフェア実行委員会
代表の諏訪さん

ベントとは異なり、プロの作家や職人が、素材から一貫して完成させた作品を展示販売するものを指します。そのため、こだわりぬいた作品が揃うことが特徴です。「茨城クラフトフェアは、今回で8回目となるイベントです。ありがたいことに毎年多くの申込みをいただき、厳正な審査のもと、今回は全国27都府県から集まった約150組が、2日間にわたって出店します」と諏訪さんは教えてくれました。

手探りで始まった クラフトフェア

茨城クラフトフェアの前身は、平成20年の稲荷町通り拡幅整備の完成

式典に合わせて開催された、下館アートフェスタというイベントだそうです。「式典を盛り上げたいと思い、中学時代の同級生3人で企画しました。手探り状態でスタートしたので、当日は予想以上にお客さんが来てくれて嬉しかったです」と、諏訪さんは当時を振り返ります。

しかし、最初は好評だったものの次第に出店者や来場者数が減り始めたため、思い切って7年目にイベントを休止。次はたくさんの人に楽しんでもらえるイベントを目指し、群馬や長野など他県のイベントを視察したり、作家さんに聞き込みを行ったりして、改めて運営方法や規則を学びました。

名前を変えて再出発

そして平成27年、茨城クラフトフェアと名前を変えて新たにスタート。他のクラフトフェアと開催時期が重ならないよう調整したり、安価な出店料に設定したりするなど、作家さんを第一に考えた運営を心がけているそうです。その結果、全国から実力派クラフトマンが集まり、来場者が3万人を超える大きなイベントとなりました。

諏訪さんは「地元を活気づけたいという思いもありますし、当日お客さんが喜んでくれる姿を見るとやりがいを感じます。まずは10回を目標に開催していきたいですね」と笑顔で教えてくれました。

取材を終えて

作家さんが参加しやすい運営をすることが会場の雰囲気良くし、にぎわいにつながっているのかなと感じました。今年もどんな作品に出会えるか楽しみにしながら、足を運ぼうと思います。

茨城クラフトフェア

期日：3月16日（土）、17日（日）

※詳しくは、裏表紙をご覧ください。



- ①さまざまな種類のキッチンカーで、食も楽しめる
- ②ワークショップを開催する店舗もあり、自分だけの作品が作れるのも魅力
- ③作家さんと交流しながら作品を選ぶのも楽しみの一つ